

練馬区議会議員(無所属)

かとうぎ 桜子

区政レポート



2013 年 1 月号

メールマガジン発行中！

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102

電話 03-3978-4154 FAX 03-3978-4158

HP <http://www.sakurako-nerima.com/>

メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp



都知事選挙に挑戦した宇都宮けんじさんと（2012 年 11 月 21 日）

2013 年も、「一人ひとりの生活を大切に」がんばります！

2012 年は、東京都知事選挙と衆議院選挙が年末に近付いて突然決まったという年でした。私も区民の皆さんから、「たくさんの方々ができてしまった何かなんだか分からない。この中から、いったいどう判断したら良いのだろうか」という困惑や失望のお声をたくさんお聞きしました。

今、日本には原発問題のほか、社会保障、消費税、TPP、経済、外交など様々な課題があり、求められる決断が多くあります。その一方で、二大政党制を期待された自民党・民主党に大きな政策的違いが見られず、特に消費税や原発問題などでは、とても国民の生活を考えるととは思えない対応がなされ、多くの国民の皆さんは失望したのではないのでしょうか。

私は、国民一人ひとりのふだんの生活を大切にしたい政策を実現させていきたいという思いから、今回の選挙では、衆議院選挙は未来の党、都知事選挙では宇都宮けんじさんを応援しました。選挙の結果としては未来の党は少数の議席となり自民党の圧勝という形で多様な声は反映しづらくなりそうですし、宇都宮けんじさんは猪瀬候補に勝つことができず残念な結果です。

今回の選挙の結果により、福祉や人権、平和といった観点からはかなり厳しい政治がおこなわれていくことになるだろうと私は受け止めています。皆さんの生活の中の声をしっかり受け止め、闘っていきたくと考えています。

二〇一三年一月

かとうぎ 桜子

参加者の皆さんから活発なご意見をいただきました。 ～2012 年 11 月 17 日・区政報告会～

11 月 17 日、土砂降りの雨の日でしたが、練馬区役所にて区政報告会をおこないました。9・10 月の区議会でも提出されていた議案の内容、私が質問した内容のご報告を 1 時間ほどさせていただいた後、参加してくださった皆さんとの意見交換を行いました。参加者の皆さんからは以下の★にあるご意見が出て、かとうぎ桜子からは◎印のように、現状をお答えしました。

★障害に関する相談をいつでも受けられるようにするために、病院や入所施設など夜間の対応ができる民間施設とも連携しながら 24 時間相談を受けられる体制をとるべきではないか。

◎福祉事務所、保健相談所での相談は平日の日中が基本になっています。障害者地域生活支援センターでは午後 8 時まで相談を受けていますが、たとえば精神障害のある方が夜中に不安になった時・体調が悪くなった時に相談できる場はありません。2012 年 12 月 25 日から、障害者虐待防止法に基づいて虐待相談は 24 時間受け付けが始まりましたが、虐待以外の相談についてもより一層の充実が必要だと考えています。

★民間に管理運営を委託している公共施設は、運営の実態をチェックしていく実効性の高いしくみが必要。

◎委託を受けて区立施設の管理運営を行う業者は日次・月次・年次の報告を行政に提出し、行政はその報告と実地調査をもとにしたモニタリングを行っています。モニタリングは区の職員だけではなく有識者委員も加わってはいますが、より客観的で透明性の高い評価の手法を検証する必要があります。

★障害のある人等「災害弱者」への対応は、東京都の防災計画とのつながりもしっかり考えていく必要がある。

◎東京都は今年度、地域防災計画の見直しを行いました。具体的な対応は区が決定し、実施することになります。都は今年度、障害者団体への聞き取り調査をおこなっていますので、区が対策を検討するときには、こうした当事者の声をしっかり反映させる必要があります。

そのほかにも、様々なアイデアなどもいただき、活発な意見交換ができました。次回は 2・3 月の区議会の内容をご報告する会を春頃に行う予定です。



2012 年 11 月 17 日、区政報告会にて

かとうぎ桜子プロフィール

- 1980 (昭和 55) 年生まれ。桐朋女子中学・高校、慶應義塾大学文学部を卒業。大学在学中にホームヘルパー 2 級の資格を取得、さらに福祉の勉強をするために上智社会福祉専門学校 (夜間) に学ぶ。
- NPO にて介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く関わることをめざし、2007 年、区議会議員選挙に初挑戦、初当選。
- 2010 年 3 月立教大学大学院・21 世紀社会デザイン研究科を修了。
- 2011 年 4 月、練馬区議会議員選挙で、2 期目に当選。
- 議会運営委員会、区民生活委員会、災害対策等特別委員会に所属。



鉄道駅のバリアフリーをより進めるために

2011年度28駅でバリアフリーの調査を実施

練馬区は2011年度、区内21駅と隣接する7駅・合計28駅のバリアフリー調査をおこないました。

国が定める「バリアフリー法」では、公共交通機関のバリアフリー化について、基準を守るように努力義務が定められています。そのため、現在では28駅すべてで少なくとも一方向に向かって移動する際のバリアフリー化は達成されています。ただ、駅利用者の皆さんから、駅によっては出口からエレベーターまでの距離が遠いなど、不便な場所があるというご指摘があがっていたそうです。そこで、まずは練馬区として現状を調べ、鉄道事業者に改善を求めることを目的にして調査が行われたようです。

急坂を移動しなければ、エレベーターにたどり着けない駅も

調査の結果の中から、左のページに主要な課題をいくつか紹介します。

この中では、地下鉄赤塚、小竹向原、光が丘などいくつかの駅で、出口付近にエレベーターがついていない場所があり、また迂回するにしても急勾配であるために車いすが移動しづらい箇所があるという指摘がありました。

駅の改修を行い、駅利用者が利用しやすい努力をするのは鉄道事業者の責任です。新たにエレベーターをつけることは場所の確保や費用の面からすぐに実現するのが難しい面もあるとは思いますが、車いす利用者の方や高齢者が利用しづらい駅は早急な対応が必要ですし、区民の皆さんの困りごとを受け止める行政は、鉄道事業者に対してしっかりとその声を伝えて改善を求めていく必要があります。

比較的軽微な工夫で改善できる点も

また、表をご覧になるとわかるかと思いますが、エレベーター・エスカレーター設置などの

規模の大きな工事が必要なもの以外にも、案内表示が不十分といった、比較的軽微な工事により改善できる課題も指摘されています。

こうした点は、ひとまずは手製の表示を加えるなどの工夫もできるものです。一方で、こうした工夫による使いやすさについては、いつも駅にいる駅員さんではかえって気づきづらい点かもしれませんから、指摘することで「気づき」につながり、新たな対応ができるのではないのでしょうか。

既存の建物や車両のバリアフリー化は、新規建設の際よりも物理的に困難な面が多くあるかと思いますが、少しずつでも改善を図っていくことが大切です。そのためには、できていない面を指摘するだけではなく、行政、民間、鉄道事業者などが手を携えて工夫をしていく必要があるのではないのでしょうか。

この調査を活用して、しっかりと鉄道事業者側との良い形での連携を進めるように、行政に求めました。

「練馬区・鉄道駅バリアフリー施設調査委託報告書概要版」（2012年3月）に記載されているものから、かとうぎ桜子がピックアップし、趣旨を要約。

駅名	主な課題
小竹向原駅	最大 441mの外部からの迂回が必要となる。その際の勾配が急坂で、車いすは通れない可能性が高いし、通れたとしても遠い。(出口 1,2)
光が丘駅	- 最大 213mの外部からの迂回が生じ、幹線道路を横断しないと行かない箇所もある。(出口 A5) - エレベーターの出口付近に段差や勾配のある箇所があり、また混雑もしている。(出口 A2,A3 のエレベーター) - 途中までエスカレーターが設置されていない出口がある。(出口 A1)
西武池袋線 練馬駅	- 最大 171mの外部からの迂回が生じ、その途上には幅が狭くて車いすが通りにくい場所がある。 - 踊り場までの高さが 3mを超える階段がある。 (そこまで一気に昇るにはつらい人もいると考えられる。) - ホームに勾配のきつい場所があり、車いすやベビーカーが滑り落ちる危険性がある。 - トイレにベビーチェアがない。
大泉学園駅	- 障害のある人にわかりやすい案内表示が不足している。 - ホームに勾配のきつい場所がある。 - トイレにベビーチェアがない。
保谷駅	- 階段の端に色がついていない。(色をつけてあれば、弱視の人でも段の境目が見極めやすく、転落の危険を回避できる。) - 案内表示板の一部が逆光で見えづらい。 - トイレにベビーチェアがない。 「耳の聞こえない人には筆談で対応できる」旨の表示が改札にない。



調査は左の図のように、駅構内の地図を載せて、具体的な課題箇所を指摘している。左の図は光が丘駅。